

王亮

王求

幸斤

幸辰

2013年(平成25年)10月28日 月曜日

講演に聞き入る参加者=19日、那覇市の県青年会館



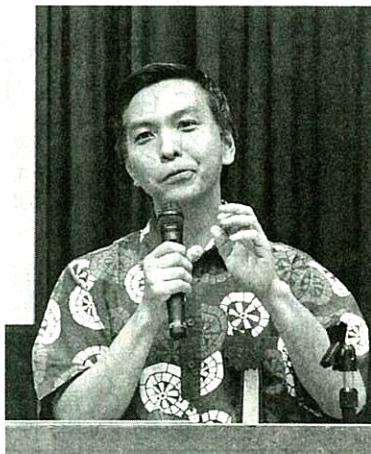
渡嘉敷村の国立沖縄青少年交流の家(佐藤良一所長)は19日、那覇市の県青年会館で「体験の風をおこそう フォーラム in 沖縄」を開催した。県内の学校教育関係者、青少年団体関係者ら120人が参加した。

渡嘉敷・青少年交流の家

専門家らが討論会

「体験」の重要性発信

那覇



基調講演をする平田大一さん
=19日、那覇市の県青年会館

「感動を財産に」

平田氏が
基調講演

子どもたちの健やかな

成長にとって、自然体験、社会体験、生活体験などの体験がいかに重要な

であるかを、各分野の専門家が広く家庭や社会に

発信することが目的。

はじめに、平田大一

県文化振興会理事長が「感

動体験が人をつくる、未

来をつくる」と題し基調

講演を行った。平田氏は

沖縄の財産に感動産業

をつくり出していきた

い」と強調し、「肝高の阿麻和利」のビデオ放映やリーダーを見つけるゲームなども行った。

引き続き、「子どもの

頃の体験の重要性と体験

の機会の提供」をテーマ

に、開梨香カルティベイ

ト代表取締役、張本文昭

沖縄キリスト教短期大学

准教授、黒木義成金城小

学校校長をパネリストに

研究発表・パネルディス

カッションが行われた。

開氏は「体験活動の機会の提供との効果について」、張本氏は「体験活動の意義を再考する」、黒木氏は「学校における体験活動実施の重要性や課題について」をそれぞれ発表、その後、平野貴也名桜大学准教授がコーディネーターを務め活発なディスカッションが行われた。

参加者からは「体験活動が子どもの心に生きる種子をまいていく。大人として、今できることを考えていきたい」との声が寄せられた。
(米田英明渡嘉敷通信員)